

平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」ポスター展示 参加者へのメッセージ

WS NO	団体・グループ名	タイトル	参加者への呼びかけ文
P1	復興庁・男女共同参画班	こんにちは！ 復興庁男女共同参画班です	復興庁男女共同参画班では、復興の現場で男女共同参画の視点がいつそう取り入れられるように、さまざまな取り組みを行っています。その1つとして、復興にあたって女性たちが活躍している事例や被災地の女性を支援している事例等を取りまとめ、『参考事例集』として公表しています。その一部をパネルにまとめてみました。
P2	男女共同参画みえネット	新しい公共の場づくりの為のモデル事業「意思決定の場への女性の参画」促進応援プラン ～寄ってたかって男女共同参画を活かしたまちづくり～	男女共同参画みえネットは、2008年、三重県男女共同参画センターの企画運営サポーターによって発足したグループです。 2011年、三重県が募集した「NPO等からの協働事業提案」に応募し、「意思決定の場への女性の参画」促進応援プランが、新しい公共の場づくりのためのモデル事業として採択され、2年間にわたり県内各地で事業を展開しました。これは、県民、企業、県・市町、大学等、多様な主体が連携協働し、「寄ってたかって男女共同参画を活かしたまちづくり」に取組んだ事業です。みえネットの呼びかけに対し、趣旨に賛同した県内5市（四日市市・亀山市・伊賀市・伊勢市・志摩市）と協働で平成23年10月から平成25年3月まで事業を実施しました。 5市それぞれにおける男女共同参画の地域づくりに取組んだ2年間の事業の全容を発表するとともに具体的事例を紹介し、「202030」に向けて全国の皆様と意見を交換したいと思います。
P3	青森県男女共同参画センター指定管理者ASTAC・G	男女共同参画の視点から実施した「避難所体験」	平成24年度に青森県男女共同参画センター等が実施した「男女共同参画の視点での避難所体験」の様態をパネルで紹介いたします。また、実施に至るまでの過程及び事後のワークショップ等も含めた体系図もご紹介し、全国のみなさんが今後実施する「防災と男女共同参画」に関するプログラムの参考になればと思っています。ぜひ、ご覧ください。
P4	新潟大学 男女共同参画推進室	新潟大学における女性研究者の育成・支援	新潟大学は、女性研究者の育成と支援に力を入れています。 両立支援の一環である「新大シッターの保育支援」は、大学の子育て支援に在生学生も参画するユニークな取組みとして注目され、女性（男性含む）研究者の保育支援のみならず、新大シッターとなった在生学生のキャリア形成にも繋がる取組みとして他大学のモデルにもなっています。「研究補助者の雇用制度」は、子育て中の女性研究者の研究面だけでなく、生活面、精神面でも効果があり高く評価されています。また、学内外と連携して女性医師支援にも力を入れています。 次世代育成としては、女性研究者の育成と裾野拡大として「大学院生によるサイエンス・セミナー」を実施しており、中高校生に研究のおもしろさを伝え、理系分野への進路選択に貢献しています。実施した大学院生はスキルアップなどよい効果が得られています。 その他、広報や情報発信についても紹介していますので、ぜひお立ち寄りください。
P5	埼玉県 男女共同参画推進センター With You さいたま	男性をとりまく環境	「男は強くなければならない」「男は弱音をはいてはいけない」など幼少期より期待される「男らしさ」は、男性の生きづらさに大きく影響しています。これまで女性の問題として取り上げられてきた「男は仕事、女は家庭」という性別による固定的な役割分担意識は、一方で男性の長時間労働を生み、家事・育児の参加を阻む要因となってきました。今回WithYouさいたまでは20代から40代の埼玉県内の男性へのアンケートを実施し、男性の声を集めました。その結果からは、時代の閉塞感の中、もがきながら未来を模索する姿が映し出されました。また、男性の自殺者は女性を大きく上回り、その原因も社会的ストレスに起因する割合が高いという結果からも、男性にこそ男女共同参画の視点が必要であることが見えてきます。男性を取り巻く環境から男女共同参画社会の実現への意識改革を呼びかけました。
P6	講座企画塾 吉田清彦	行列ができる!! 男女共同参画講座事例集 人が集まる講座の企画・運営で男女共同参画の地域づくりを！	「男女共同参画講座にはなかなか人が集まらない」という声がある一方で、ターゲットのニーズを読み取り、ターゲットに届く確かな広報を行うなかで、「行列ができる講座」をたくさん実施している女性センターや男女共同参画センターがあります。「講座企画塾」(http://ptokey.net/)ではそのような講座の情報を「全国の元気な女性センターと講座情報」のページで紹介していますが、今回は、そのなかから、応募者の多かった「人気講座」32事例のチラシを実物サイズで展示します。「子育て支援」「就業支援」「ライフプラン」「コミュニケーション」「健康」「介護」「終活」などの分野で実際に多くの人を集めた男女共同参画講座のチラシは、どのような切り口で、どのような言葉を用いれば人が多く集まるかの実物見本として、「地域づくりに役立つ男女共同参画講座」の企画や広報に今すぐ役立つものばかりです。

※各団体のワークショップの実施時間、場所については別紙ワークショップ一覧をご覧ください。

平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」ポスター展示 参加者へのメッセージ

WS NO	団体・グループ名	タイトル	参加者への呼びかけ文
P7	横浜国立大学 男女共同参画推進センター	8年間の取り組みから考える大学における男女共同参画—何が鍵となるのか？	横浜国立大学は、4つの学部と5つの大学院からなる中規模の大学です。学部による差はあるものの、従来から男性教員や男子学生が多くを占め、女性の数は教員、学生ともに少なく、男女共同参画への理解や取り組みは他大学と比べて大幅に遅れていました。本展示では、そうした状況にある横浜国立大学における8年間の地道な取り組みを紹介しながら、どのように男女共同参画の重要性が理解され、教育研究機能を備えたセンターとして学内に位置づけられるようになったのか、整理をしています。決して平坦ではなく、時には厳しいことも多いこれまでの道のりは、多くの方々が男女共同参画の取り組みを模索するうえで、参考になると考えられます。今後は、学内外の方々とのつながりを大切にしながら、様々な事業を行う予定ですので、皆様にご覧いただき、ご意見などを伺えることを楽しみにしております。
P8	エンパワーメント11(い)わて	被災女性・支援女性への調査を通じた調査実施者(ルビ:じよせいたち)のエンパワーメントの記録	私たちエンパワーメント11(い)わては、もりおか女性センターの主催講座を修了し、2011年5月に立ち上がった女性グループです。2012年4月～5月に岩手県内の被災女性・支援女性を対象に「東日本大震災における女性の経験に関するアンケート調査」を実施しました。1年間の集計・分析作業を経て、本年6月に「東日本大震災における女性の経験に関するアンケート調査報告書～復興・復幸の実現に向けて～」を公表したところです。本パネル展示では、グループとしての活動歴が浅く、また、調査を実施するのに必要な専門的知識を持たない私たちがアンケート調査に取り組むことにした思いや、調査実施途中の様子、調査の過程で感じたことや考えたこと等、活動を通じたエンパワーメントの記録をご紹介します。
P9	ねりまジェンダー研究会	『ジェンダー・イコール』	最も身近な、暮らしの中にあるジェンダーについて、パネルを見ながら語り合いませんか？ 当たり前と思っていたさまざまな慣習や習慣について、ちょっと立ち止まって考えてみませんか。男女共同参画社会を創るために！
P10	株式会社キャリア・ママ	キャリア・ママは、女性のライフスタイルに応じた自分らしい働き方を応援します	キャリア・ママは、全国10万人の主婦の力を最大限に活用したビジネスを展開しています。「主婦目線」「主婦のコミュニケーション力」は、自然と備わった彼女たちのスキルであり、企業の商品開発やマーケティング、プロモーションにて力を発揮します。「これは売れる」「これがほしい」という主婦の意見が形になることで彼女たちは社会参加の喜びが得られ、企業は貴重な生の声を集めることができます。キャリア・ママはその間に立ち消費者と企業の橋渡しをしています。社員の9割が女性であり、会員同士のコミュニケーション促進、仕事情報や教育、生活に関する情報提供を行う中で「自分らしく生きたい」女性を多方面から応援しています。
P11	かすがい女性連盟	活動紹介「女性の視点を入れた地域での防災・減災 子育て世代と一緒に」	阪神淡路大震災、東日本大震災と未曾有の災害が起こった現在、来たるべき災害に備え、過去の反省も踏まえ女性や弱者の視点を入れることが男女共同参画につながる大切なことだと来場者に呼びかけました。映画「311:ここに生きる」は東日本大震災ドキュメンタリー映画で女性監督が被災地で頑張る女性たちを追ったもので、多くの感動を呼び起こしました。